

JIS

ゴムパッキン材料－性能区分

JIS K 6380 : 2014

(JRMA/JSA)

平成 26 年 9 月 22 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 化学製品技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	土 肥 義 治	公益財団法人高輝度光科学研究センター
(委員)	穴 澤 秀 治	一般財団法人バイオインダストリー協会
	今 井 勇	一般社団法人日本ゴム工業会
	植 田 新 二	一般財団法人化学物質評価研究機構
	大 石 奈津子	一般財団法人日本消費者協会
	香 山 茂	一般財団法人化学研究評価機構
	川 人 康	公益社団法人自動車技術会
	斉 藤 良	日本プラスチック工業連盟
	佐 藤 浩 昭	独立行政法人産業技術総合研究所
	高 橋 俊 哉	一般社団法人日本塗料工業会
	田 和 健 次	石油連盟
	松 永 直 樹	拓殖大学
	松 村 収	独立行政法人住宅金融支援機構
	松 本 芳 彦	一般社団法人日本化学工業協会
	森 川 淳 子	東京工業大学

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 34.3.30 改正：平成 26.9.22

官 報 公 示：平成 26.9.22

原 案 作 成 者：一般社団法人日本ゴム工業会

(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル TEL 03-3408-7101)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 稲葉 敦)

審議専門委員会：化学製品技術専門委員会 (委員長 土肥 義治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 性能区分	1
3.1 区分の体系	1
3.2 基本性能	2
3.3 物理特性	3
3.4 ゴムパッキン材料の性能区分の表示例	4
附属書 A (参考) 追加性能の表示方法	5
附属書 B (参考) 参考文献	12
解 説	13

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本ゴム工業会（JRMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS K 6380:1999** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

ゴムパッキン材料—性能区分

Rubber packing material—Classification of physical properties

序文

この規格は、1959年に制定され、その後4回の改正を経て今日に至っている。対応国際規格であるISO 4632-1は2001年に廃止されたが、日本国内ではこの規格の必要性があるため、使用者の要望を重視し、性能表示を含む規定内容をより分かりやすくするために改正した。

1 適用範囲

この規格は、ゴム製のパッキン材料・ガスケット材料及びこれに類するゴム製品に使用する加硫ゴム材料（以下、ゴムパッキン材料という。）の性能に基づく区分について規定する。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS K 6251 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—引張特性の求め方

JIS K 6253-2 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—硬さの求め方—第2部：国際ゴム硬さ（10 IRHD～100 IRHD）

JIS K 6253-3 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—硬さの求め方—第3部：デュロメータ硬さ

JIS K 6257 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—熱老化特性の求め方

JIS K 6258 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—耐液性の求め方

JIS K 6261 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—低温特性の求め方

JIS K 6262 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—常温、高温及び低温における圧縮永久ひずみの求め方

3 性能区分

3.1 区分の体系

ゴムパッキン材料を規定するためには、図1に示す七つの性能項目による区分が含まれていなければならない。

それぞれのゴムパッキン材料を3.2に規定する基本性能及び3.3に規定する物理特性によって区分する。ただし、図1に示す基本性能の一部若しくは物理特性の一部を変更するか、又は別の性能を追加する必要があるときは、受渡当事者間の合意によって、追加性能^{a)}を追加記号、試験方法区分数字及び試験温度区分数字によって表示することができる。

注^{a)} 追加性能の表示方法を、附属書Aに記載する。